

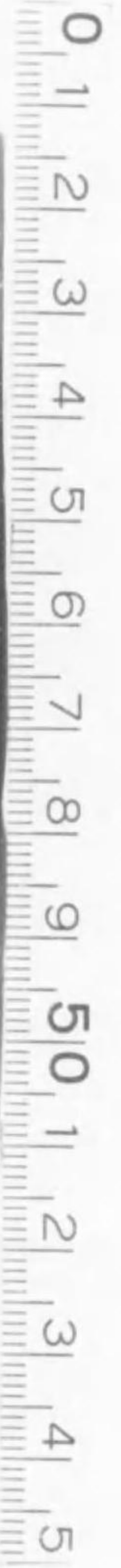


385  
40

# 市勢要覽

昭和十二年度刊行

静岡市役所



# 始



凡例

本書ハ市勢ノ概要ヲ通覽ノ便ニ供スル  
目的ヲ以テ編纂セリ  
本書ノ材料ハ昭和十一年度市統計書中  
ヨリ摘録シタルモノニシテ昭和十一年  
中ノ事實ヲ登載セルモ經費ニ關スルモ  
ノハ昭和十二年度當初豫算ヲ又教育ニ  
關スルモノハ昭和十一年度末現在ヲ輯  
録セリ

昭和十三年三月

静岡市役所

總說

地勢

静岡市ハ東西兩京ノ中間ニアリテ東經百三十八度二十八分四十一秒、北緯三十四度五十七分二十九秒ノ地ニアリ駿河ノ國西南部ニ位シ二百六十二ヶ町及七十六ヶ字(大正四年十一月、同十三年四月、同八月、同十四年五月、昭和三年十月、同十一月、同四年三月、同六月、同七年一月、同四月、同九年十月區域變更併合並ニ町名改稱ヲ行ヒタリ)ニ分ツ市境域ノ東ハ安倍郡有度村清水市、庵原郡西奈村ニ接シ西ハ安倍川ヲ隔テ、志太郡、安倍郡服織村、美和村、玉川村ニ接ス、南ハ駿河灣ニ面シ北ハ大河内村ニ隣ス、市内ニ谷津山清水山(公園)、八幡山、有東山ノ小丘點在スト雖地勢概ネ平坦ナリ。北部ハ赤石山脈ノ一支脈安倍川ノ東岸ニ沿ヒ長ク南ニ走リテ賤賣山トナリ竟ニ淺間神社ノ兩境ヲ爲ス。

沿革

本市ノ地ハ古駿河ノ國府ニシテ州守世々此地ニ居リ今川義元、織田信長ト桶狭間ニ戰ヒテ敗死シ子氏眞武田氏ノ爲メニ滅サレテ信玄之ヲ領シ勝頼亡テ徳川氏ニ歸シ家康茲ニ老ス慶長十四年十二月十二日徳川領宣同忠長相續キテ領シ忠長ノ窺後城代ヲ置キ又町奉行所代官所アリ明治維新ノ後更ニ徳川家連ニ駿遠三州ノ内ヲ賜ヒ明治二年府中ヲ改稱シテ静岡ト謂ヘリ同四年廢藩置縣ノ令出テ静岡縣廳ヲ置カレ同五年駿河國ヲ八大區ニ分チ當時本地ハ第四大區第五小區ニ割セラレタリ降リテ同十一年郡區編成法發布セラレ、ヤ有度安倍郡所管ニ屬シ同十七年七月官選戸長ヲ置カル、ニ至リ五個ノ戸長役場ヲ置キ其後同二十二年四月始メテ自治制ヲ施行シ當時ノ地域ヲ全市ノ一區域ト定メ靜

地勢・沿革

土地・氣象・戸口

戸		氣象				地					
國勢調査		氣溫天候日數				公團		土地所有者		免租地	
年次	世帯數	最高	最低	平均	公園	市內居住者	市外居住者	私立學校敷地	保嬰安地	病院敷地	池沼地
大正九年	12,542	31.5	10.5	18.5	清水公園	10,121	1,421	1,000	1,000	1,000	1,000
大正十四年	12,542	31.5	10.5	18.5	淺井公園	10,121	1,421	1,000	1,000	1,000	1,000
昭和五年	12,542	31.5	10.5	18.5	大瀨公園	10,121	1,421	1,000	1,000	1,000	1,000
昭和十年	12,542	31.5	10.5	18.5	宗島公園	10,121	1,421	1,000	1,000	1,000	1,000
平均人口	12,542	31.5	10.5	18.5	宗島公園	10,121	1,421	1,000	1,000	1,000	1,000

土地		市本地位			
有民	地租	總反別	官有地	私有地	合計
地目	種類	面積	面積	面積	面積
田	畑地	1,000	1,000	1,000	1,000
池沼地	池沼地	1,000	1,000	1,000	1,000
山	山林	1,000	1,000	1,000	1,000
原野	原野	1,000	1,000	1,000	1,000
雜種地	雜種地	1,000	1,000	1,000	1,000
合計	合計	1,000	1,000	1,000	1,000

同市ト稱シ同四十一年十月安倍郡豊田村南安東ノ内一部ヲ本市域ニ編入シ越ヘテ翌四十二年二月同郡南賤機村ヲ廢セラル、ヤ同村ノ内安西井宮、安西内新田、安西、安西外新田ノ四大字全部ヲ合併シ更ニ昭和三年十月豊田村ノ全部、同四年三月安東村及大里村ノ全部、同七年四月賤機村ノ全部、同九年十月長田村、麻機村、千代田村、大谷村、久能村ノ全部ヲ合併シ市域ヲ擴張セリ



立園稚幼	育					教					立官
	校學種各立私公	校學小立縣		校學等中立私	校學等中立縣	校學等中立私		校學等中立縣	立官		
園	美理簿法英盲種	附靜附靜	校	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
數	變變記語啞	屬女屬	名	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
組	學學學學學	小師小	名	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
數	校校校院校	學師學	名	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
保	其女看產裁美	童	級	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
母	子護婆縫容	童	級	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
園	藥婦學學學	童	級	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
兒	他校校校校	童	級	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
保	育滿了者	童	級	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		
交		童	級	靜英靜靜不	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜靜靜靜靜	靜	校		

費育教	立市立	教														
		立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	立市立	
臨經	安靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
計時常	東同	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
部部	幼幼	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
名	園園	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
數	一	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
保	母	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
兒	育	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
修	了	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
者	所	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
在	地	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	
地	地	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	靜	



社		道		水		生	
委員	方面	救護	救護	給水	給水	衛生	衛生
兒童保護	人事指導	救護院	救護所	給水戸數	給水普及率	除穢	除穢
三件	七件	院外	院内	給水區域内戸數	給水器取付戸數	埋葬	埋葬
三件	七件	別種	別種	給水戸數	給水量	汚物	汚物
三件	七件	救護	救護	給水普及率	給水量	死者	死者
三件	七件	救護	救護	給水普及率	給水量	核結	核結
三件	七件	救護	救護	給水普及率	給水量	核結	核結

衛生		衛生		衛生		備	
傳染病	傳染病	傳染病	傳染病	傳染病	傳染病	傳染病	傳染病
赤痢	腸炎	傷寒	霍亂	傷寒	傷寒	傷寒	傷寒
赤痢	腸炎	傷寒	霍亂	傷寒	傷寒	傷寒	傷寒
赤痢	腸炎	傷寒	霍亂	傷寒	傷寒	傷寒	傷寒
赤痢	腸炎	傷寒	霍亂	傷寒	傷寒	傷寒	傷寒
赤痢	腸炎	傷寒	霍亂	傷寒	傷寒	傷寒	傷寒





種別	産	畜産									
		飼育戸数	收穫量	高價	額						
蠶絲	蠶屑玉上	區	其細准販作絲	繭生	桃梅	シダシサコキ	ナ	ネレサカ生トナスカシキ	エ	區分 名 千 円 百 圓	
		分	物肥 結	青レ 莢果	ド	ケ	ガマヤ	タ	ブ大		イ
類	類	飼育戸数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		收穫量	1	1	1	1	1	1	1	1	1
類	類	高價	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		額	1	1	1	1	1	1	1	1	1

種別	農	農				耕地	特種	數戸	地土	額
		茶	麥	米	其他					
計	計	區	紅香煎玉	小稈大	陸水	茶	本	田	現	
		分	茶茶茶露	麥麥麥	米米米米					畑
計	計	製造戸数	1	1	1	畑	業	畑	戸	
		收穫量	1	1	1					山
計	計	高價	1	1	1	畑	業	畑	人	
		額	1	1	1					竹



金		業						商									
銀		(賣卸) 價 物 均 平						衡 量 度		社 會			種 各				
行 店 本								積 成 締 取		別 務 業 別 職 組			體 團 合 組				
種 別	行 政	品 名						取 締 戶 數	甲 種	乙 種	商 業	農 業	合 株 會 社	合 合 會 社	準 同 產 業 組 合	名 稱	
		單 位															甲 種
普通銀行	種別	茶	精	白	味	醬	食	小	大	小	大	大	大	大	大	大	
蓄蓄銀行	種別	茶	精	白	味	醬	食	小	大	小	大	大	大	大	大	大	大
	資本金	百	一	百	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	拂込額	百	一	百	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	積立及預高	百	一	百	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	諸貸付金	百	一	百	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

會 工 商		館 助 獎 工 商		業	
議 員 定 數		館 長		物 產 工	
議員定數	顧問	館長	商工技師	商工主事補	商工技手
顧問	役員	商工技師	商工主事補	商工技手	雇
役員	會議度數	商工技師	商工主事補	商工技手	雇
會議度數	選舉有權者	商工技師	商工主事補	商工技手	雇
選舉有權者	經費	商工技師	商工主事補	商工技手	雇
經費		商工技師	商工主事補	商工技手	雇









### 名勝舊蹟

**善静岡御用邸** 追手町に在りて明治三十三年の御遺營に係る。敷地約〇・〇二三平方軒〔七千坪〕建坪〇・〇〇二平方軒〔六百餘坪〕和風二階建にして、其の結構瀟洒たりと雖も自ら莊嚴を極む。明治三十五年十一月十八日明治天皇初めて御駐蹕あらせられしより風聲鶴駕を駐めさせ給ふこと四十餘回殊に昭和五年 今上陛下靜岡縣下御巡幸の御途次五月二十八、九兩日茲に御駐蹕あらせ給ふ。而して此の御用邸は御遺營以來宮内省の主管なりしも昭和五年十二月十九日限り之を廢止せられ同七年十一月三日日本市に御移管あらる。

其の一角の地をトして市廳舎及公會堂用地とす。

**駿府城址** 市の中央に在りて停車場を距ること僅に八百七十三米（八町）。其の地城東西六百五十五米（六町）南北七百二十七米（六町四十間）にして稍方形をなし面積〇・五一六平方軒（一五六、〇〇〇坪）あり吉野朝の頃中賀野掃部助此處に防備を整へ、久能寺城と連絡して足利宗氏の東下を遮らんとして成らず。後今川義政駿府に居を定むるに當り此の城を居館として修築し、又天正十四年徳川家康公濱松より遷り松平家忠をしてこれを擴築せしむ。慶長十二年家康公駿府を死喪の地となし、本城修築を令し畿内、越前、尾張、三河、丹波、備中、近江、伊勢、美濃等に課役二月工を起し七月竣工す。十二月新城火災ありしが翌十三年正月再修を命じ三月に至りて成る。城は所謂平城の制にして南を追手とし、外廓に追手、四足、草深、横内の四門を設け、以内を二の丸、本丸とし本丸の西北隅に七重の天守閣を起す。元和二年四月、家康公の薨後徳川頼宣忠長相尋いで城主たりしが寛永九年忠長甲府に移されてよりは城代を置きて守らしむ。同十二年十一月茶町二丁目よりの出火にて二門を除くの外悉く烏有に歸せしを以て同十五年更に遺營すと雖も天守閣は再建するに至らず。

明治二十九年、本丸、二の丸を毀ちて歩兵第三十四聯隊の營舎を置き又外廓には縣廳其他の官公署學校等を設けたるを以て今や昔時の壯觀なしと雖も尙石疊濼の舊態を存して其の面影を留む。

**淺間神社** 賤機山の南麓に在りて停車場を距ること一千六百三十六米（十五町）。樓門は東、南の二方に在り、東樓門を入れば神部神社及淺間神社、南樓門を入れば大歳御祖神社あり。三社共に國幣小社なり、神部神社は式内に列し、之を駿河國惣社に宛て、祭神を大己貴命とし、崇神天皇の御代に奉祀せりといふ。淺間神社は富士郡大宮町の淺間神社の新宮として總社と並べ祭りしものにして、木花咲耶姫命を祭神とし其の年曆は社傳によれば延喜元年とす。大歳御祖神社は安倍市の守護神を地主神たる奈香屋神社にいはひ祭り應神天皇の御代に奉祀せりといふ。神部、淺間兩社の前には三層高閣の大拜殿あり、舞殿あり、長廊之を繞りて其の前面に樓門を開く。次に隨身門、華表あり。結構壯麗繪巻の美を極む。又百段坂の上には郷社蓋山神社（山宮ともいふ）あり。

今川頼國駿河の守護となるや大に之を崇敬し奉り、其政治に曲事あらば忽ち罰し給へかしと誓書を納め、其の子範氏亦天下太平の祈願を行ひ規模を宏壯

にして大に神威を蒙がし、神職、供僧及び國方と稱する奉仕者をも加へ奉幣の式流鏑馬の如き神事を行ひ、久能寺、建徳寺等附近の大寺をも祭事に加へしめ以て上下の信仰をこゝにあつめて施政に當れり。されば武田信玄、徳川家康も皆祭事造營に心を致し、徳川時代には御朱印二千六百餘石神職、供僧十數家ありて之に奉仕せり。而して社殿は寛永十一年家光公より黄金十六萬兩の下賜ありて改造し、大に善美を盡せしが、安永二年及び天明八年の火災に燒失し、今の殿宇は文化元年起工、慶應元年に竣工したるものにして、其の間六十二年、財を費すこと金八萬餘兩に及び、境内は潤く二萬餘坪ありて、古松老杉を交へ、梅櫻各其研を争ひ四季の風光極めて佳なり。

淺間神社の大祭は毎年三月三日なれども、外に古來の祭典として二十日會祭あり、この舞樂は今川氏の頃より建徳寺の稚兒舞を招き演奏せしめて神に手向けしものにて毎年二月二十日を以て舉行せしが明治維新後中絶し明治二十七年に至りて之を復興し四月五日となすに至れり。

寶物は正親町天皇御宸筆龍虎大文字掛物、後水尾天皇御宸筆色紙、青蓮法親王御筆、狩野探幽寄信書に成れる三十六歌仙、家光公染筆の幅、左甚五郎作狛犬、武田、今川、豊臣、徳川諸家の古文書及由緒ある武具什器書畫等多く就中天正年間豊太閤より家康公へ譲與の初代長光蘇卷の太刀は明治四十四年國寶に指定せられ今東京九段なる遊就館に陳列せらる。又家康十三歳の鎧着初に用ひたりと云ふ緋威の腹巻は今川義元の調へたるものにして傳來寶物共に合致したる貴重なるものなり。其他大拜殿格天井の狩野伊川、融川筆の龍及び天女圖、本殿背後の鴉、樓門の龍、神馬等の彫像物は亦有名なるものなり。

淺間神社の大修繕 現今の社殿は前記の如く文化以來の遺營なるが既に大破に及べるを以て、政府に於ても之が復舊を企て昭和四年以來國費を以て大修繕を加ふることとなり工事を開始し、神部、淺間神社の本殿透塼は昭和六年四月竣成し今や大歳御祖神社の本殿透塼、大鳥居及び大拜殿の修繕にも着手せり。又此と同時に靜岡市民の寄附に係る奉贊會事業として大廻廊を始め國費修繕以外の橋末社總門等の大修繕並に神城整備等を遂行することとなり年來繼續事業として各社殿の撤替作業等全く其精緻を呈し昭和十一年十一月之が完成を見たるものにて其莊麗比なく實に金碧燦爛として今日の盛觀を極めたり。

この完成を期し十一月二十日、二十一日の二日間に亘り嚴肅なる御遷座祭を執り行はせられ引續き二十二日より二十四日に亘る三日間盛大なる奉觀祭を行はせられたり。

**賤機山公園** 賤機山は一に青葉ヶ岡と稱す。百段坂を登りて蓋山神社に詣れば少許にして公園に達すべし。大正三年四月開闢する所にして〇・〇〇九平方軒（二千七百餘坪）あり、全市の萬象脚下に迫り富岳は遠く東北に聳えて透運たる龍爪山脈其の前に起伏し、南は一勢萬項の駿河灣を擁して伊豆の連峯香櫛の間に現し、西は徳顯、天柱等の群峯蜿蜒として極まる所なく安倍の長流は素絹を展ぶるが如く其の蓋を繞りて南駿河灣に流る。聽許際涯なく其の風光の美言はん方なし。

**寶臺院** 停車場より西五百四十二米（約五丁）下魚町に在り。淨土宗にして金米山龍泉寺と號し正永三年觀覺上人の開基なり。天正十七年五月



秀忠公の母堂西郷局を葬り無量寺殿と諡す。當時は難屋町に在り。寛永三年今の地に所管を仰せ付けられ、九千餘坪を賜はりて同年起工同五年竣工す。同年五月九日、後水尾天皇勅して龍泉寺殿へ從一位を贈せられ、改めて寶臺院殿一品大夫人の諡號を賜はり寺號を寶臺院と改む。同年七月十九日住持に常紫衣を許さる。本堂には彌陀三尊を安置し靈廟繪樓等頗る壯麗を極めたり大方丈(神殿)並靈廟は昭和十三年二月國寶の指定を受く。大方丈は規模宏壯木割雄大なる書院造にして靈廟は形式優美内部裝飾頗る華麗なり。共に工匠甲良豊後宗廣の遺骨と傳へられたり。

境内には家康公の巨櫛原清政、内藤仁兵衛忠政及び奇人かしく坊の墓あり尙當院は徳川時代三百石の御朱印を賜はり、駿河國の淨土宗の禪頭にして明治元年(慶應四年)七月二十三日徳川慶喜公に謹慎し翌二年十月五日まで閉居す。寶物は寶臺院宣命、賜紫衣繪旨を始めとして幾多の古文書、家康公眞筆の畫像及び公が父より譲られし眞の太刀其他所藏する處のもの多く殊に家康公守本尊たりし白本尊は有名なるものなり。

**大瀨公園** 市の南端西島海岸松林中に在り。停車場より四軒(一里)昭和五年九月開園するところにして面積は〇・〇二三平方軒(七千坪)に過ぎざるも左右防風林一・九六四軒(十八町)に及び前面は清砂なる海岸濱地にして、利用せらるゝ面積約〇・一九八平方軒(約六萬坪)を有せり。

公園附屬設備として海水を取入れたるプール四ヶ所の設けあり。本市唯一の臨海公園にして夏期は最も納涼に適す。

**清水山公園** 音羽町に在りて音羽町電車停留場より僅かに一〇九米(一町)。明治四十二年八月開園し面積〇・〇二二平方軒(六千六百五十五坪)あり。園内に本邦茶葉界の功勞者大谷嘉兵衛翁の銅像あり。丘上に至れば四望開豁にして、市街を隻眸に集め、遠く伊豆半島を萬波濤の裡に望むべく眺望頗る佳なり。

**清水寺** 清水山公園の傍にあり。當寺は永祿二年朝比奈丹波守元長が國主今川義元の命により京都東山の音羽山清水寺に擬へて建立すといふ開山を道因法師とす。高野山派に屬する眞言宗の一名刹にして、家康公の念持佛たりし専心時都作の千手觀音を本尊とす。山號を音羽山といふ。堂宇は初め山頂に在りしが後に今の處に移さる。境内に觀音、金毘羅、地藏等の諸堂及び日華觀音殿あり。親善殿は本邦享樂時代の様式を基調とし之に巧みに支那式を加味せる鐵筋コンクリート造にして本尊は元駿河國分寺本尊丈六菩薩藥師如來を安置す。

大正八年十二月新に建立せる鐘樓の鐘は昔時の駿府時鐘を改鑄したるものにして題詞は慶喜公、家康公の揮毫する所なり。境内に芭蕉翁、月巢、時雨窓等の句碑あり。駿河路やば那たちばなも茶のには飛雪屋人月巢、菅乃旅杖一本乃いのちか那、四世時雨窓、三當寺に國分寺所傳の今川、武田兩家の古文書其の他什物を藏す。就中九條道孝公寄進の藥師如來畫像は有名なるものなり。

**臨濟寺** 大岩に在りて停車場より二・八三六軒(約二十六町)【淺

間神社より北方約一軒(十町)】臨濟宗の巨刹にして大龍山と號し阿彌陀を本尊とす。此寺は初め今川氏親が三男承芳の爲めに亡母伊勢氏北川殿の所在地大岩に善徳院を建てしが、天文五年氏親の嫡子氏輝卒せし時當寺に葬り臨濟寺殿用山安公と諡すに至つて寺名を今の如くに改む。承芳乃ち復讐して家を繼ぎ義元と名乗り大原雪齋住寺となり、其の師本光國師大休を請じて開山とす。大休は後奈良天皇學の師範にして其の縁によりて當寺を一國一寺の勅願所とせられ今も勅東海最初禪林と號す。其後兩度兵燹にて伽藍炎上せしかば、天正十年八月家康公、正親町天皇の勅を奉じて再建せり。嘗て公の幼時今川氏に質たるや雪齋につきて茲に史書、兵學を學ぶといふ。寺域廣くして山を負ひ、堂塔繪樓相並びて翠巒綠樹の中に現はれ泉石の配置亦丹青を凝らして觀賞に富む。寺寶には後奈良天皇の勅額及御宸翰、正親町天皇の御宸翰、今川、武田、徳川諸家の古文書、雪舟、探幽等の畫幅類を始めとして珍什頗る多し。境内門の左傍に今川美元の廟あり。

**大應國師産湯井** 井宮にあり。大應國師は諱を紹明と言ひ嘉禎元年井宮に生れ此の井水を産湯に用ひたりと傳へらる。幼にして建徳寺の淨辨に仕へ十五歳の時齋變して鎌倉の建長寺に學び、後宋に渡りて臨濟の高僧虛堂を師とし歸朝の後崇福(筑前)萬壽(京都)建長(鎌倉)等の諸寺を主り後宇多法皇、北條貞時等より厚く歸依せられ、延慶元年七十四歳にて遷化す。其の圓通大應國師の諡號は後宇多上皇より賜はれるものなり。國師の木像はもと井宮圓通庵に在りしも、現在寺町三丁目少林寺に藏せらる。

**由比正雪の墓** 由比正雪丸橋忠綱と謀り徳川幕府を覆さんとせしも事成らず。慶安四年七月二十六日當地梅屋町の旅宿梅屋勘兵衛方にて捕縛に先ち自盡す。年四十二、其の首級は安信領に輸せられしを誰人が竊み來りて寺町四丁目菩提樹院の井戸の傍に埋めしといふ。而して何れの時か五輪(地輪は風)に失せ後他の似つかはしき物を以て補ふ)の墓を立て、後世を弔ふに至れり。

**安倍川橋** 安倍川の架橋にしてもと安水橋と稱す。此の渡頭は承和の頃には渡船三艘ありたるも徳川時代に至り舟橋を禁じ大井川と等しく聲譽にて渡川せしむること、なし以て明治の世に至れり。宮崎總五氏其の不便を憐み私資を投じ架橋せしを後縣營となす。更に大正十一年三月鐵橋架設工事に着手し、同十二年七月開通式を舉ぐるに至れり。長さ四百九十一米、二百七十間、經費約金六十萬圓、橋上の眺望絶佳にして夏時は最も納涼に適す。

**安倍川義夫の碑** 市の西部彌勒安倍川橋畔に在り。停車場より二・八三六軒(約二十六丁)義夫の事蹟は尋常國語讀本卷の七に載する處にして原文は名僧白隱禪師の筆に成り其の詞末を叙す。此の佳話を遺せるの地未だ嘗て之が旌表の念なきを憐し、昭和四年四月本縣の懇意により靜岡縣、靜岡市、安倍郡の三教育會之が主催となりて碑を建て安倍川義夫碑と題し、尙ほ原文中の一句を刻して之を後記に傳ふ。

不レ臨レ難 不レ知レ忠 臣 之 志 一  
不レ臨レ財 不レ知レ義 士 之 心 一  
久能山東照宮 根古屋に在り靜岡縣より約十一軒(二里廿九町)定期自動車便ありて三十分間にて達す。山は海岸に屹立し巖々として天に攀へ絶

名勝 齋 蹟



静岡市廳舎並公會堂

壁削るが如く海抜二百七十米あり谷亦深くして景勝の地なり。武田信玄駿河を略し此の山の險要を見て要城の一と爲さんとて一城を構へ今福井波守郡園を以て茲に居らしむ。天正以降徳川氏の有となるや松平勝俊、補原照久相尋て此を守る。元和二年四月十七日家康の命するや城を廢し補原照久遺命を奉じ自ら齋主となりて公の遺骸を富山に葬れり。將軍秀忠、額宣を奉行となし此所に神威を遺誓す(元和三年)同三年十二月工竣り遷宮式を舉げ慶應三日の宣旨を賜ひ正保二年十一月東照宮の宣下あり。明治六年二月縣社に、同二十一年五月別格官幣社に列せられ、毎年四月十七日例祭を行ふ。境内は一萬六千五百餘坪にして頂上は四望開闢にして風景絶佳、實に東海道著名の靈山勝區なり。山麓に梅園あり。茲より社頭迄凡そ八町、九〇九畝の石段曲折十七にして一の門に達す。夫より又石段二百三十餘にして樓門に至るべし。一の門を過ぐれば右側に寶物館及び山本助の大井戸、左側に物見の松あり。樓門には後水尾天皇の勅額を掲ぐ。門内には皇族御手植の松、神馬殿、東照公御手植の靈柑、稻荷殿馬神社、久能神社、唐銅鳥居、寶洞梅、神饌所、神樂殿、東照公御手植樹、御寶藏、龜神社、日枝神社等あり。夫より唐門を入れば拜殿、本殿あり。本殿は權現造にて此の唐門、拜殿本殿及東門、廟門、廻廊、玉垣等は何れも特別保護建造物なり。其の結構莊麗にして日光に耀らす。廟門を過ぐれば寶塔に達す。老杉高く天に沖して極めて幽邃の境たり。寶物の内東照公遺留品三池の太刀を始め太刀、脇指等の國寶に指定されたるもの十數口あり。徳川歴代將軍の甲冑其他什物數百點の多きに達す。

**大崩海岸** 川原野の西方に在り。斷崖海に迫るところ奇岩怪石突兀として峙ち南方遙かに御前崎、伊豆の岬を蒼海深淵の裡に眺め、北方富士の白雪を仰ぎて極めて壯觀なり。附近は川原野址其他史蹟に富めり。

**柴屋寺** 丸子橋を右折すれば數町にして當寺に達す。天柱山と號し臨濟宗に屬す。蓮歌師宗長法師に、に附居せしを以て有名なり。此地東は吐月峯に據り西には天柱山麓へ北は首尾山に接し南は泉ヶ谷を隔て、丸子富士に對し實に幽邃閑雅を極む。宗長は志太郡島田町の刀工五條義助の子にして國守今川義忠に愛せらる。宗祇に就きて蓮歌を學び又一休に參禪す。此寺の庭は宗長の作る所にして泉石の配置妙を極め雅致に富み文人墨客の杖を曳くもの多し。什物は後水尾天皇御寶藏和歌。さても稱とはれぬ秋の夕日は、雲ふく風も峯に見ゆらん

を始めとし宗長の百韻蓮歌遺愛の一節切の情、足利義政より贈られたる蓋、武田信玄の川ひし村樂の茶碗、一休和尚より寄せたる鐘鉢額阿の作と稱する人丸像等を主なるものとす。當寺の竹細工は有名なるものにして今川氏が京都の嵯峨より竹を取寄せて植えたりと傳ふ。此時宗長自ら句を題して曰く

巖若葉はやし初めの園の竹  
現今種々の細工物に製せられ吐月峯なる烙印を捺して販賣す。其の製品には灰吹、花生筒其他種類多し

昭和十三年三月二十日印刷  
昭和十三年三月二十五日發行

静岡市役所

印刷所 深尾印刷所

電一、七九五番

社 神 間 淺



寺 濟 臨



墓の雪正比由



院 臺 寶



邸 用 御 岡 靜 舊



靜岡高等學校



靜岡中學校



靜岡師範學校

場水淨道水營市



館勵獎工商市岡靜



廳縣岡靜



館會部醫科齒縣岡靜

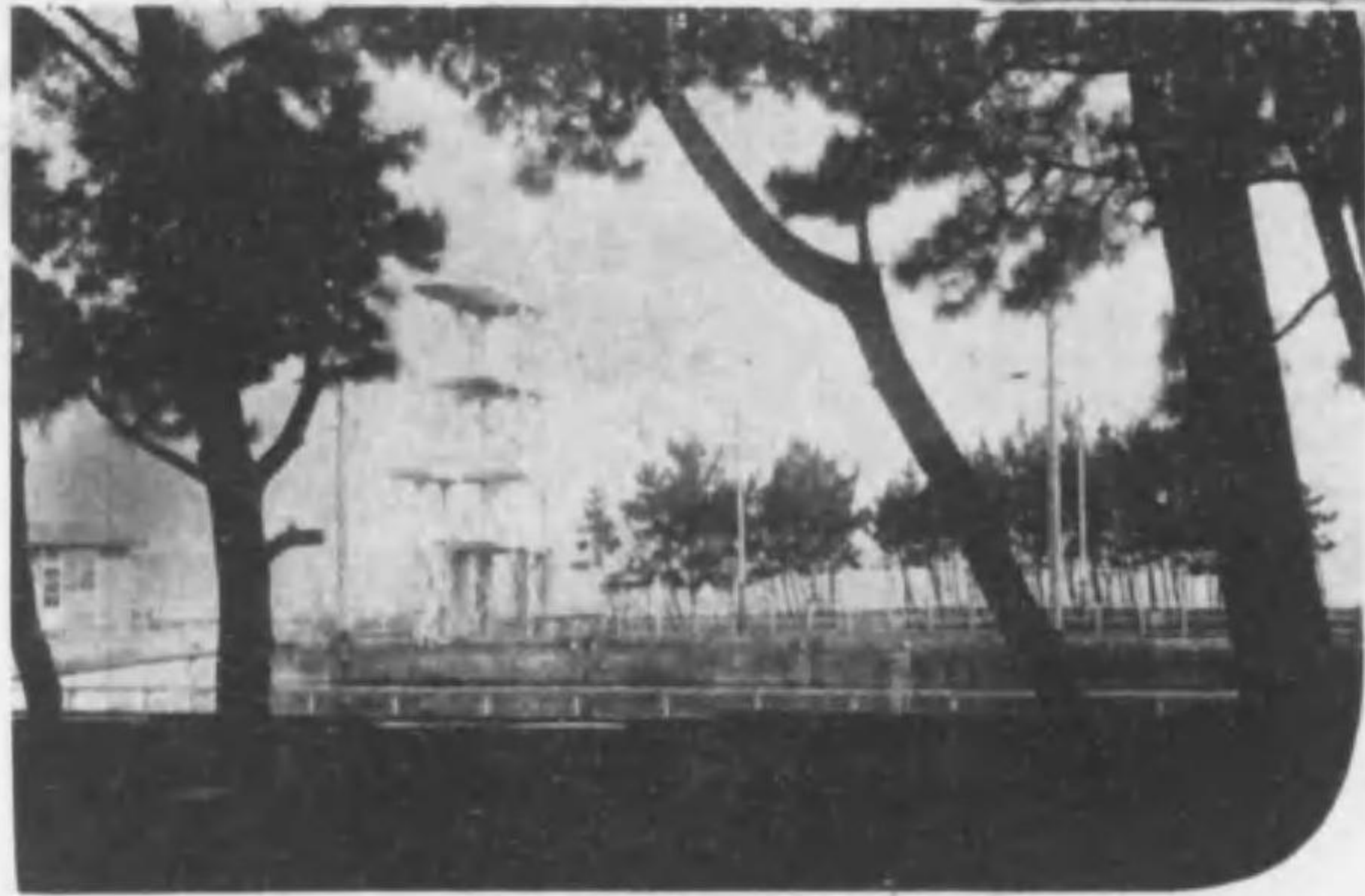


所議會工商岡靜

大濱公園の碑



清水山公園



静岡安西尋常小學校



徳川慶喜公屋敷址【浮月樓】





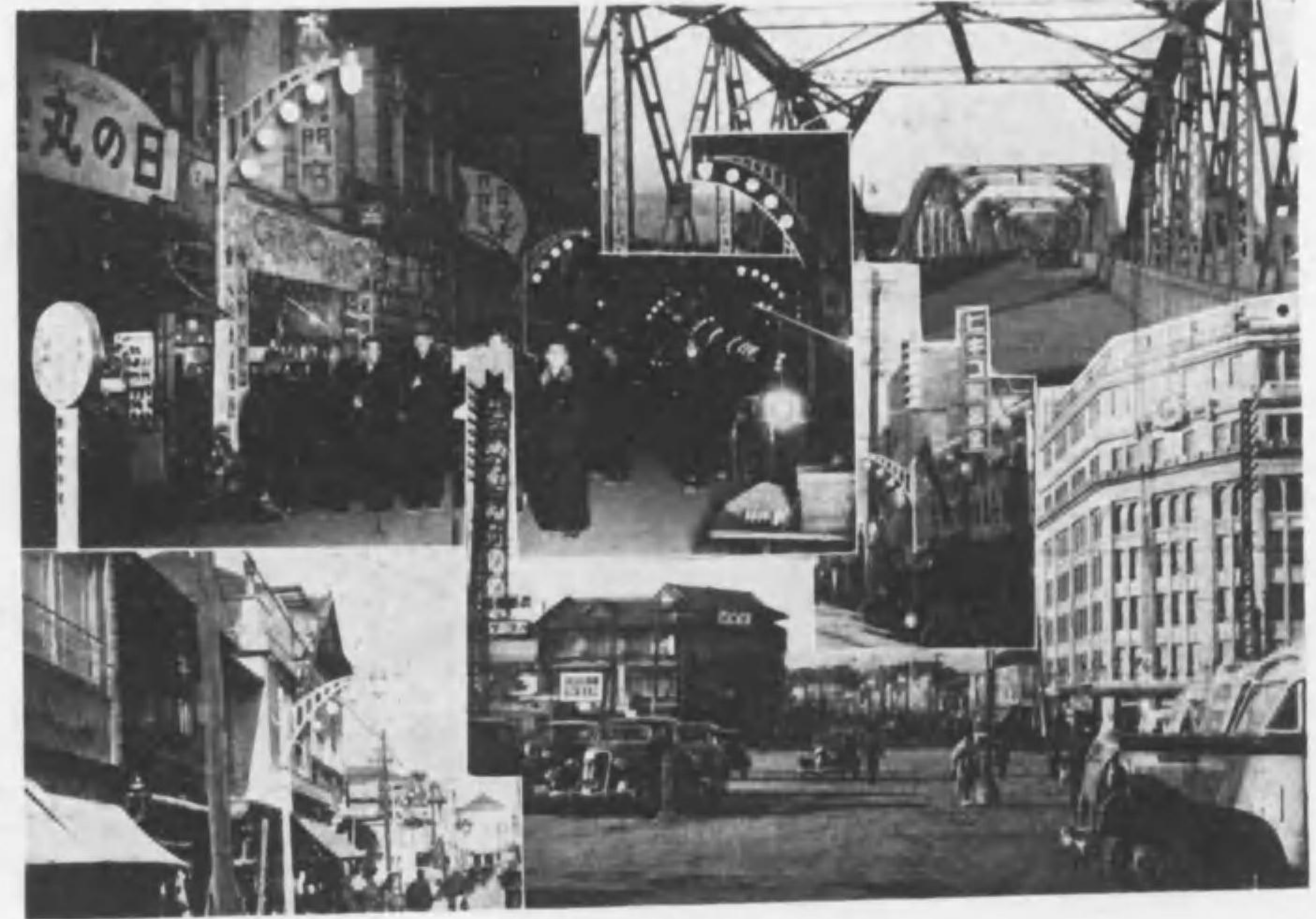
東照宮本殿



久能菴一ノ部



久能山東照宮



市街

# 静岡市歌

東京音楽学校作曲

$\text{♩} = 58$

ススミユク マチノリ  
 サウラフ ジノネ ノ スガタト  
 アフギケダカク モ キヨラカ  
 ニ ワレライザ ココロム  
 スバンチカラア ハセ ン ー

土 名 財	總 生 産 額	人 戸	面 積
産 物 と 政		口 數	
銘茶、漆器、蒲鉾、山葵漬、吐月峯 竹細工、竹器、木製玩具、塗下駄、 梨、蜜柑、椎茸、興津鯛、魚鱈、安 倍川餅、名物羊羹、静岡蕎麥、茶蕎麥	六千四百七十萬三千圓	三萬七千一百四戸 二十萬一千五十九人	一四七、八七五軒 (九・五八九方里)
一般會計 二百八十三萬三千圓 特別會計 四百三萬六千圓 總 計 六百八十六萬九千圓	第一位 工 産 第二位 農 産 第三位 水 産 第四位 畜 産		

表紙上欄ハ當市重要物産ニ  
 關シテ記述セラルモノナリ

# 静岡市歌

静岡市歌  
東京音楽学校作曲

一

進みゆく 市の理想を

富士の嶺の 姿と仰ぎ

崇高くも 清らかに

我等いざ 心結ばん

力 協せん

二

榮え來し 市の歴史は

葵葉の にほひ芳し

とことばに 語りつぎ

我等いざ 郷を讃へん

光を添へん

三

駿河なる 國原ひろみ

限りなき 天恵のみより

もろともに 挽みなく

我等いざ 務果さん

しほぎ勵まん



静岡市歌

静岡市選歌  
東京音楽学校作曲

一 進みゆく 市の理想を

富士の嶺の 姿を仰ぎ

崇高くも 清らかに

我等いざ 心結ばん

力揃せん

二 榮え來し 市の歴史は

奏 葉の にほひ方し

とことばに 語りつぎ

我等いざ 郷を讀へん

光を添へん

三 駿河なる 國原ひろみ

限りなき 天恵のみり

もろともに 携みなく

我等いざ 務果さん

しにぎ勲まん

終